

県政モニターアンケート結果等

アンケート実施：平成23年6月

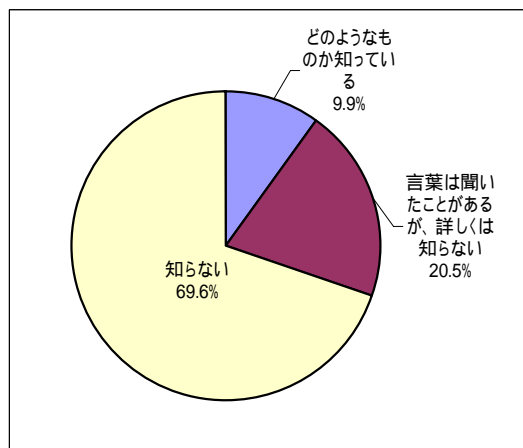
1. 県政モニターアンケート結果

設問 アール・ブリュットを知っていますか。(回答チェックは1つだけ)

項目	%	実数(人)
どのようなものか知っている	9.9%	30
言葉は聞いたことがあるが、詳しくは知らない	20.5%	62
知らない	69.6%	211
計		303

「どのようなものか知っている」を選択された方にお尋ねします。アール・ブリュット作品(現物)をご覧になったことがありますか。

項目	%	実数(人)
1.見たことがある	41.4%	12
2.見たことがない	58.6%	17
計		29



2. 県広報誌「滋賀プラス1」3・4月号

特集「アール・ブリュット 滋賀からの新たな光」への主な感想(自由記述)

3/4月号への主なご意見・ご感想など		年齢	性別
1	一瞬、南米当たりの民芸品かな?と思えた。まだまだ知らない美術がたくさんあるんですね。機会があれば、足を運んでみたいと思います。	30代	女性
2	アール・ブリュットとても興味があります。最近、県内のあちこちで展覧会があり楽しみです。美術で障害者への理解を深めると共に、社会における弱者の立場をみんなで考え、触れ合う社会を希望します。	40代	女性
3	「アール・ブリュット」ってその時、その気分で出来上がる、しいて言えばその人の魂がこめられた作品...すごい!!	40代	女性
4	滋賀県を日本・アジアでのアール・ブリュットの拠点にしていこうという実に力強い意欲を感じました。今後是非時々特集していただきたいと思います。	30代	女性
5	障害者を子に持つ親として、作品展や現場を見学することは多くありましたが、ただなんとなく、仕方なくつづいているくらいの気持ちで見えておりました。しかし、「アール・ブリュット」の記事を見て、今後はこのような作品を見る目が大きく変わりました。滋賀県は福祉の先進県と言われておりますが、今後ともいろいろな分野に発展することを願っております。	70代	男性
6	アール・ブリュットにとっても感動しました。パリでの開催にとっても興味がありました。まだまだ「障害者のアート」と思われていることが多く、高齢者の作品にもとても素敵な作品があると感じました。	60代	女性
7	私も偏見ではありませんが、障害者によるアートという風にとらえていたのかもしれないかもしれません。きちんした正しい情報って本当に必要ですね。	50代	女性
8	「アール・ブリュット」を初めて知り、仕事から、物を作るという観点と同じで色々な観点で物事を感じ、考えなければと、改めて思いました。また滋賀の情報、環境、文化など勉強したいと思いますので、役立つ情報等を期待しています。	40代	男性
9	アール・ブリュットジャポネ凱旋展、大変よかったとのこと。このニュースを聞いた県民はみなおどろいた。その時点では、アール・ブリュットと呼ばれる芸術作品が十分理解できなかったが、特集としておせよいただきよく分かった。見る人を引きつける自由な表現力、日本・アジアでのアール・ブリュットの拠点として、県内県施設などでも展示していただきたい。	60代	女性
10	アール・ブリュットすごく興味があり、ぜひ実物を見に行きたいと思いました。私も絵を描いたりするのが好きですが、思うままに表現するのが難しいです。	60代	女性
11	初めて聞きました。よく見ると味わいのある作品ですね。近くの歴博などで展示されることを希望します。	60代	女性
12	アール・ブリュット、子供の作品のような感じを受けるこの作品、見てるだけなら楽しいが、作るのは大変そう。でも若干の興味はある。	60代	男性
13	何かでアール・ブリュットのことをお聞きしましたとき、一度拝見したいと思っておりました。芸術的ですが素晴らしい作品だと思っています。	60代	男性
14	アール・ブリュット特集は、万人への周知をしていて良かったです。ただ残念ながら、日本ではまだ障害者のという偏見が強いので、その偏見を取り除くような特集や記事を再び見たいです。世界では、彼らの評価は非常に高いので、文化をはくむという意味でも有益だと思います。	30代	男性

	3/4月号への主なご意見・ご感想など	年齢	性別
15	「アール・ブリュット」の魅力について勉強になりました。ポーダレス・アートミュージアムHO - MAでも作品を拝見したことがあります。根気のいる作品に驚かされました。	50代	女性
16	芸術作品の魅力を大発見し、これから滋賀県の作業所の皆様にご覧いただきたく。	50代	女性
17	今回の特集で、「アール・ブリュット」と呼ばれる芸術分野の作品ということを知りました。記載された写真からも、私は生命の鼓動や素朴なやすらぎを感じました。それらの作品を生み出している人たちに「思い切りできる環境」と「直接よりそう人たち」と「包括的な公的支援」と「発表の機会」などを与えて下さったいろいろな方々に感謝したいと思います。先駆的にこの振興に取り組んでいる「滋賀県」にもメールを送ります。	50代	女性
18	アール・ブリュットの作品がかもします、不思議な魅力にしばし引きつけられました。紙面を通してだけではなく実物の作品を見たら、また違ったものを感じるのでしょうか。ぜひ見てみたいです。	40代	女性
19	私はアール・ブリュットという言葉を知り、とても興味・関心を抱きました。3・4月号で特集していただき、とてもわかりやすかったです。	40代	女性
20	ピアザ淡海にもアール・ブリュット作品が展示されていたり、NO - MAの作品も見に行きました。誰もが自由に発想し表現できる。またそれを受けとめる環境があることがすばらしいです。	40代	女性
21	障害のある方にスポットを当てることにより、よりよい福祉県のSHIGAになること、強く望みます。	40代	男性
22	「アール・ブリュット」は、初めて知りました。パリで博覧会が開かれ、高く評価されていたことは知っていましたが、内容はよく知らなかったの。"障害者と共に"という考えで、滋賀は前向きに取り組んでいると思いますが、もっと広くたくさんの方が関わっていただけるようにと願います。いろいろな障害者のいろいろな取り組みをもっと紹介してください。	40代	女性
23	アール・ブリュットと聞いて、何かよく分からなかったが、読み進めていくうちにすごく身近な芸術として感じられた。機会があれば、いろんな面で体験してみたいと感じました。	30代	男性
24	実は今までサーッとしか目を通さなかったのですが、今回はじっくり見ました。	30代	女性
25	アール・ブリュットの特集良く分かりました。次回は、数々の作品の紹介をお願いします。	70代	女性
26	アール・ブリュットという言葉初めて知りました。何にもとらわれずにうぶのままの作品なんですか？素晴らしい言葉だと思いました。自分も何か物作りのとき、型にとらわれずに作ってみたいと思いました。	60代	女性
27	昨年テレビでアール・ブリュットのことを見て少し知っていましたが、今回の特集でより詳しく分かり、これから鑑賞するときの参考になりました。	60代	女性
28	「アール・ブリュット」という言葉を知り、またどういう芸術かということも初めて知りました。	50代	男性
29	アール・ブリュット、初めて知りました。本能のままに作らずにはいられない、そんな気持ちを味わいたくなりました。	50代	女性
30	澤田さんなど滋賀県在住の方の活躍ぶりが掲載されていました。もっと全国の方々に知っていただきたいと思いました。アピールよろしく願います。滋賀県の自慢じゃないですか。	50代	女性
31	「人間の本质って何だ？」を考えるアート「アール・ブリュット」聞き慣れない言葉で記事を読みました。実感はないのですが、障害者の芸術かな？としか理解できません。今後もこのような特集をお願いします。	50代	女性
32	アール・ブリュットの特集がとてもおもしろくて勉強になりました。作品の写真がカラーでないのがとても残念だったので、ぜひ実物を見に行きたいと思いました。身近な会館やカフェでもこのような素晴らしい作品を展示し、いろいろな人にも気軽に見られるようになればいいですね。	30代	女性
33	今回のアール・ブリュットの記事を読ませて頂き、NO - MAに行くきっかけを作ってもらいました。展示している作品がどれもとても丁寧で、細かに描かれているのに驚きました。アール・ブリュットを目で心で楽しませて頂きました。	50代	女性

アール・ブリュットジャポネ凱旋展 アンケート結果

1. アール・ブリュットジャポネ凱旋展の概要

- ・日時 2011年2月1日(火)～6日(日)
- ・会場 大津プリンスホテル コンベンションホール淡海
アメニティーフォーラム15との同時開催企画として実施
- ・来場者数 3,491人
- ・アンケート回答者数 423人

2. 来場者(アンケート回答者)の概要

年齢		
年齢	回答数	%
12歳以下	5	1%
13～19歳	9	2%
20～29歳	53	13%
30～39歳	72	17%
40～49歳	84	20%
50～59歳	90	21%
60～69歳	91	22%
70歳以上	17	4%
無回答	2	0%
	423	100%

地域		
どちらから	回答数	%
滋賀県内	225	53%
他都道府県	196	46%
国外	0	0%
無回答	2	0%
	423	100%

参加区分		
参加区分	回答数	%
アメニティー フォーラム参	53	13%
一般	329	78%
関係者	11	3%
無回答	30	7%
	423	100%

展覧会の印象		
評価	回答数	%
とてもよい	316	75%
よい	97	23%
ふつう	8	2%
あまりよくない	1	0%
よくない	1	0%
他	0	0%
	423	100%

3. 展覧会への感想のうち主なもの(自由記述)

展覧会の感想・意見等	
1	この様な世界の作品を見るのは初めてで、その芸術性にびっくりしました。
2	心に直接せまって来るようなこの感覚は言葉では表せない。私達が既成の型の中で生きているという現実をみせつけられた様に思います。この枠の外にはもっと自由ですばらしい世界が広がっているのだと頭ではなく、心が感じました。
3	予備知識なしで見ましたが、迫力に圧倒されました。ガイドの方の説明がわかりやすく、興味をそそる語り口にとっても好感が持てました。
4	自由奔放な発想と原始的な力がミックスした不思議な魅力があった。プリミティブアートに出会った気持ちだ。
5	圧倒的な迫力！これほどパワーがあるものとは思いませんでした。障害者に関係のない一般の方にも見て欲しいです。
6	多くの方々に見ていただき、その価値をわかっていただきたいと思います。アートは何か、芸術は何かの原点を考えさせられる機会をいただきました。

展覧会の感想・意見等

7	私は美大を出て専門教育を受けたものですが、アートの本来の姿をここに見て、頬をうたれた気分です。
8	帰国展だから、仕方がないが、全てを網羅する様子がひっかかる。今後はテーマごとの展示を希望する。
9	常設されて、いつでも見るできるようになれば幸せです。
10	今後も美術館やギャラリーで継続的に新作や旧作を見ることができるようになればありがたいなと思いました。
11	ここで展示されているのは心の中の形や色、そのものだと思います。だからこれ程までに人を引き付けるのだと思います。また、時間や人にとらわれることのない純粋な物であり、これが本当の作品だと思います。
12	利用者さん達の描く作品の扱いを今一度考えていかなければならない。
13	八幡のNO-MAでもアールブリュットの作品を見た事がありますが、今回の展覧会は作品数も多く、独特の世界に浸ることが出来ました。これからも、このような企画を楽しみにしています。
14	芸術とは？アール・ブリュットとは？商業的商品として扱われていいものか？売買や著作権。障害者と健常者のアートに違いはあるのか？今後、様々な問題が山積みされると思うが、作家がそれに巻き込まれることなく、作品を造りつづけられる環境が保たれるように守ってほしいと思う。
15	以前より多くの作家の作品が見られて良かった。しかし、皆こぎれいにまとめられて「作品」となってしまった所に何かの作為を感じてしまいます。作者の本来の姿とは「別のモノ」になってしまった感じがますますしてしまいました。
16	もっと告知しているんな人にみてもらうべき。
17	とてもステキな作品ばかりでした。ぜひもっと多くの人に知ってもらいたいし、我が県でも開催してもらえたらと強く思いました。
18	いつ見ても不思議な気持ちになる作品ばかりです。作家の思いを読み取ろうとしても読めない。
19	たくさんの作品を実際に見ることができてよかった。独創的な感覚と筆や線、色の使い方がとても新鮮で楽しい展示でした。
20	元気がでるという第一印象です。一生懸命無心で行われている。作品作りの時間の中で出来上がった作品に苦しみやつらさがなく、見るものに希望と感動を与えるのは、まさにアートと感じました。

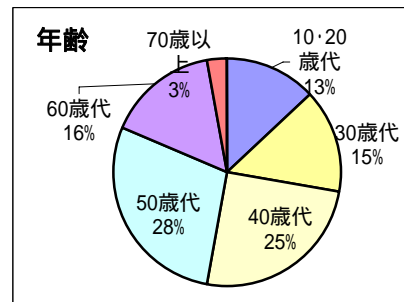
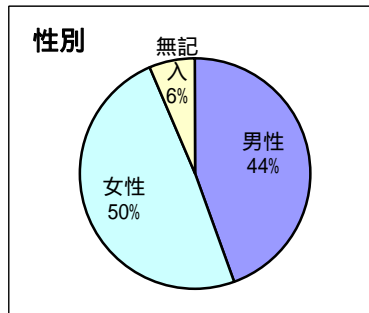
アール・ブリュットの振興に関するアンケート結果

アンケート実施：平成23年7月9日、7月18日

「アール・ブリュットを巡るトークシリーズ(第1回)」および「滋賀の未来戦略フォーラム2011」の両会場にて、来場者を対象に実施

性別

男性	48
女性	53
無記入	7
合計	108

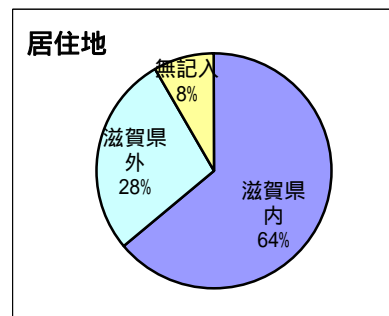


年齢

10・20歳代	14
30歳代	16
40歳代	27
50歳代	31
60歳代	17
70歳以上	3
無記入	0
合計	108

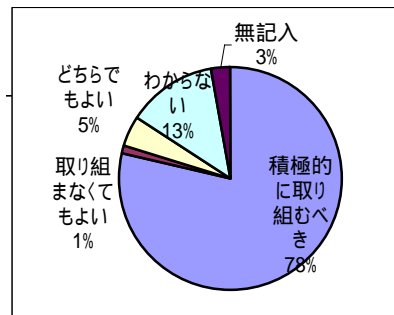
居住地

滋賀県内	69
滋賀県外	30
無記入	9
合計	108



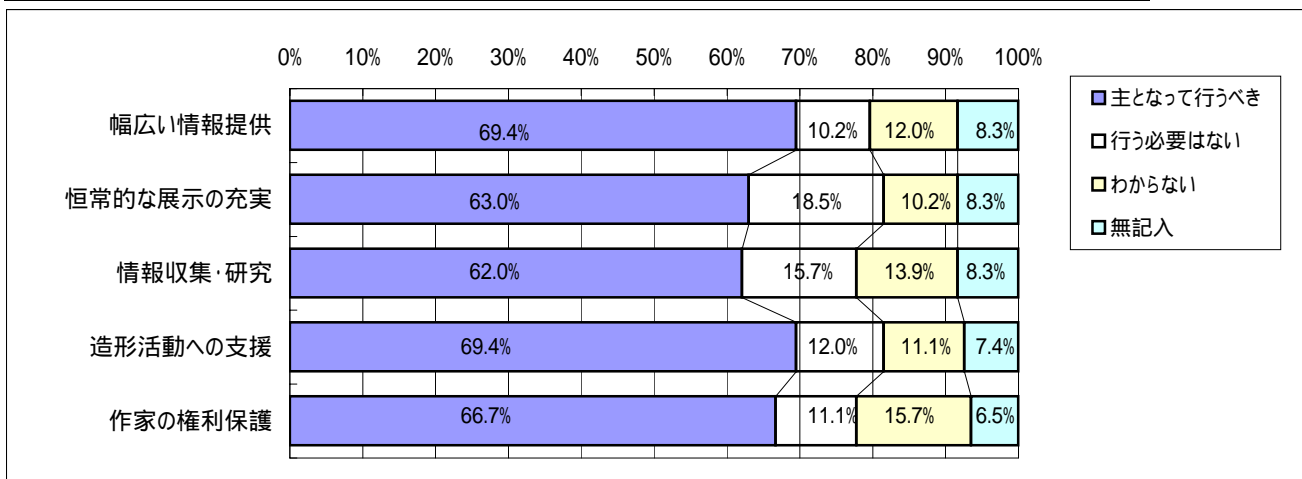
問 県がアール・ブリュットを振興することについて

積極的に取り組むべき	85
取り組まなくてもよい	1
どちらでもよい	5
わからない	14
無記入	3
合計	108



問 次の役割を県が行うことについて

	主となって行うべき	%	行う必要はない	%	わからない	%	無記入	%	合計
幅広い情報提供	75	69.4%	11	10.2%	13	12.0%	9	8.3%	108
恒常的な展示の充実	68	63.0%	20	18.5%	11	10.2%	9	8.3%	108
情報収集・研究	67	62.0%	17	15.7%	15	13.9%	9	8.3%	108
造形活動への支援	75	69.4%	13	12.0%	12	11.1%	8	7.4%	108
作家の権利保護	72	66.7%	12	11.1%	17	15.7%	7	6.5%	108



滋賀県内で造形活動を行っている福祉施設との意見交換会結果概要

開催日時：平成 23 年 8 月 4 日、8 月 9 日

出席施設：計 9 施設（14 人）

作品の製作・保管について

ほとんどの施設で作品の保管に困っている

- ・アトリエは作品があふれている状況。一施設で保管するには限界がある。（複数施設）
- ・作品にいいものとよくないものがあるのは健常者の場合と同じ。よくないものは捨ててもいいのでは。（C施設）
- ・作品はどんどん作られているからといって人にあげてしまったりしていると、手元に残らず、後世に判断を委ねることもできなくなる。保管をどうしていくかが課題。（E施設）
- ・特に精神障害のある人の場合、脚光を浴びた途端に描かなくなったり、オリジナリティが無くなることもあり、危惧している。（F施設）
- ・せっかく才能があっても、就職すると時間がなく、つくることをやめてしまう。（I施設）

作品の評価について

評価してもらえる機会や評価のガイドラインが求められている

- ・一部の才能ある人だけ取り上げるのはどうか、という平等論的な声も聞くが、いい絵はいい絵。アール・ブリュットで何かを変えようとするなら、素晴らしい作品とそうでない作品との線引きは必要。線引きすることについては、本人たちは展覧会で評価されるためにやっているのではなく、生き甲斐のためと思っているので問題はない。また、世界陶芸祭の開催時に、目利きができるベテランの方が県内の各施設等を回ってアドバイスをされたことが、自分たちが作品の見方を変えるいい機会になった。外部に言われると施設（職員）も変わる。（B施設）
- ・ある日急に作らなくなったりする人もいるので、いい作品を残す取組は必要。評価のガイドラインなどがあるとよい。ただ、福祉の現場では（造形活動は）あくまで福祉活動の一環として行っているもの。「福祉活動」と「その人（固有）の表現」の整理も未開拓。（D施設）
- ・作る時、発表する時など、その折々で細かく評価できる（してもらえる）場があればいい。（E施設）

作品の販売等について

作品の販売機会は必要と考えているが、その適切なあり方に悩んでいる施設が多い

- ・授産施設なので作品を売らないといけない。売れる作品を現場で見極めるには、いかに人の評価に接する経験を積むか。そのためギャラリーにも売り込みに行き、より多くの人に見てもらおうようにしている。ただ、作品の値段や契約をどうするか、海外に（作品が）行ってしまうと二度と会えないなど、課題はたくさんあると認識している。（B施設）
- ・画廊と同じように、指導者はマージンを取っていいのでは。（C施設）
- ・作品写真等の掲載料はすべて本人に渡している。施設の企画展で作品が売れた時も、額装費以外は本人に渡すルールにしている。施設の収入にする理屈がないのももらっていないだけだが、この方法が正しいかどうかはわからない。NPOで作成しているポストカードは、売れたら10%本人に還元している。施設の作業として作られた作品だとそうできない。また、パリ展出版作家を中心に引き合いは増えているが、ルールがない中で安易に外に出すことに不安を感じている。（D施設）
- ・販売するものの値段は、粘土代、釉薬代、材料代等から割り出しているが、評価が高くなり付加価値が付いたものは（売りたいくても）売れなくなる。（H施設）

作品発表の機会について

作品を発表する目的は様々だが、発表の機会が増えることは賛成

- ・作家個人を紹介する機会は、本人や家族にとってやり甲斐のアップにつながる。美術館等での展示機会が増えるのは嬉しい。施設では市町の一公民館でやるのがやっと。(B施設)
- ・授産施設なので、日々PRして、見てもらえる機会を探している。年間を通して各地での展覧会に出したり、自ら企画展を行っている。展覧会開催にまつわる海外とのやりとりや権利関係の問題、また作品の梱包ひとつまで一福祉施設として対応しているが、勉強しながらやっている状態。(B施設)
- ・施設で全員の作品を展示する機会はあるが、「良いもの」を展示する機会を増やしていければと思っている。(G施設)
- ・園の活動を知ってもらうために、年1回の作品展を何とか続けている。公募展もあるが、学園には出展のための予算がなく、本人も負担できない。(H施設)

周囲の意識について

作家の周囲の支援者がしっかりとアール・ブリュットに向き合うことが大事

- ・障害のある人＝アートの才能がある人、という先入観を持って見学に来る人もいる。(A施設)
- ・作家本人よりも作家の家族のために平等に展示している場合がある。変わるべきは施設職員の意識。職員自身の発想を変えないと、伝わるものも伝わらない。(B施設)
- ・健常者側の見方から見直さないと、いつまでも「障害のある可哀想な人たちの絵」のまま。(C施設)
- ・(アール・ブリュットが注目を集めていることに対し)施設職員が特に対応を変えたり、ブレる必要はない。いろんな人の持つ様々な才能のうち、今はその人のその才能に光が当たっているのだと、幅広く考えればいい。(D施設)
- ・パリ展の作品には一定の傾向(緻密さや脅迫的なこだわりによる作品が多い)が感じられた。選ばれるために(評価される作品の)傾向に合わせに行くのが心配。周りの支援者や家族はチームに乗ってはいけないと思う。(I施設)

権利関係について

- ・成年後見人の必要性が保護者に理解されにくい。手間だけ増えると思われている。(D施設)
- ・人権、著作権など、いかに整備するか。(B施設)

「美の滋賀」としてアール・ブリュットを発信することについて

福祉施設で造形活動を行うことが正当に評価されるようになってほしい

- ・一施設として現行の福祉制度の中で芸術活動をやり続ける苦労はある。(活動の指導者等が孤立等しないで済むよう、)県としてアール・ブリュット推進の看板を掲げることにより、芸術活動が正当に評価されるようになってほしい。そのためには「美の滋賀」として焦点を当てるところ(県民の資産として後世に残すもの)と、障害者活動(それ以外のもの)との線引きは必要。良い作品は美術館で扱って欲しいが、美術館の他にもギャラリーなどがあればいい。(D施設)
- ・外部に発信するのはいいことだが、作品が一人歩きし、本人に還元されていない。(I施設)

中間まとめに関する市町や県民等からの意見

1 市町に対する中間まとめ説明時の意見・提案

(1) 市町の取組や県との関わり方について

	意見・提案の概要
1	アール・ブリュットは施設だけでなく、個人でやっておられる人も多いのではないかと。各市町に協力してもらい、そういう人の発掘をしてはどうか。
2	市としてもアール・ブリュットの取組を連携してやっていきたい。
3	アール・ブリュットには市として積極的に取り組んできている。市町がやってきたこととの関わりがはっきりしない。市としても協力していきたいと思うので、今後、具体的な行動計画ができれば提示して欲しい。

(2) アール・ブリュットの評価、位置づけについて

4	審美眼が大事になるだろう。うまく進めていかないと理解されない。障害者がつくったものとして一線を画す感覚ではなく、いいものはいいと扱われるようにしなければいけない。
5	賞には評価が必要となる。賞を設けるのもいいのではないかと。
6	大量の作品が生み出されるが、アートとの線引きが難しい。パブリックミュージアムコレクションに入るということは、アーティストにとって大きな意味がある。そういう意味ではしっかりした評価のもとにやらないと、誤解や、別の問題を生むかもしれないので、慎重に取り組むことが必要。
7	アール・ブリュットが本当に芸術面から評価されるのであれば、少々時間はかかってもこれから自然に定着していくはず。性急な取り組みで、後になって滋賀県がアール・ブリュットのバブルを焚きつけたと言われるようなことにならないよう気をつけて欲しい。それによって一部の障害者の生活が振り回されるようなことがあってはならない。
8	芸術品であると評価されるようになっていかないといけない。「かわいそうやから買うわ」ではなく、「何だ、これは」から、徐々に認知され、評価されるようになっていくべき。

(3) アール・ブリュットの発信について

9	アール・ブリュットについては、しっかりした経験を持った人が見ていないと、作品が作品として生まれてこない、外に出てこない。全体の中でほんの一握りの光る作者、作品を見つけ、育て、世に出していくために、専門的にサポートできる人材を育てるような場所があるといいのではないかと。
10	アール・ブリュットという言葉は耳慣れないし、入館者数が減少しているという近代美術館からの発信では弱いのではないかと。街中で自然に目に触れる、商業施設の一角に展示してあるという状況を作るのがいいと思う。
11	作られた作品ばかりでなく、作る人の姿を大事にしてほしい。

(4) 福祉の側面からの意見

12	障害者福祉の現場では障害者の生活基盤が弱いことが最大の課題。造形活動以前の問題として生活を支える仕組みをどうするかで手一杯な部分がある。アール・ブリュットの取り組みが、自立した生活をしていく手立てとなるような仕組みに繋がってほしい。
13	中間まとめを読むと、作品＝物に焦点が当たっているように見えるが、大切なのは物より人である。安心して生活できる環境があってこそ、プラスアルファの部分で造形活動を進めることができる。行政の役割としては、まずはそこから考えるべきではないかと。人がおきざりにならないようにして欲しい。
14	障害者の可能性が広がることになると思う。生計を立てることにつながるなら、後方支援を大いにやっていくべきだと思う。

2 県民等からの意見

(1) 中間まとめの記述と直接関係のあるご意見

	中間まとめ頁	関係項目	意見・提案の概要
アール・ブリュット振興のための基本的な考え方と目標について			
1	7	基本的な考え方	「世の光を」という強烈な福祉イメージをテーマにすることで、アール・ブリュットが障害者アートとして知られることになり、結果として芸術文化として受け止められにくくなるのを危惧する。
2	7	目標	滋賀が(アジアの)アール・ブリュットの拠点になるという目標が、覇権主義と受け止められることを危惧する。
滋賀県に期待される役割について			
3	9	アール・ブリュットを発見する	造形の現場では、美術活動はどうしても付属的な活動と見なされ、担当職員以外はあまり関心がなく相談できなかつたり、予算が十分に付けられなかつたり、という現状がある。現場への支援を考えてほしい。
4	9	アール・ブリュットを発見する	アール・ブリュットの作家は基本的には自ら発信しないので、代理者(アドヴォケート:擁護者、弁護者)の役割が重要になる。どういう人が代理者たるべきか問う必要があるのではないかと。
今後の取組について			
5	12	発信拠点の整備	美術館で収蔵するのは良いが、既に活動しているNO-MAとの連携協力だけでなく、活動のすみ分けを明確にするべき。
6	12	発信拠点の整備	アール・ブリュット作品は、生活の中から生まれているところに魅力がある。正しく評価されることは大事だが、あまり権威付けて生活から遠ざかることがないようにしてほしい。
7	12	発信拠点の整備	滋賀県立近代美術館が発信拠点となるのであれば、美術館の側での体制を整える必要がある。
8	12	発信拠点の整備	作品貸出について、貸出先へのサポートも必要。
9	13	アール・ブリュットのネットワーク構築	ネットワークには精神科病院も含めてもよいのでは。
10	13	アール・ブリュットのネットワーク構築	アール・ブリュットの情報拠点について、資料・情報収集、学術的研究は、国内外問わず行う機関を目指すべき。
11	14	アール・ブリュットのネットワーク構築	アール・ブリュットが、作品だけでなく、それを生み出すその人の自己表現のプロセスが評価され社会に発信されていくことを望む。

(2) 全般的なご意見(「美の滋賀」や美術館も含めた意見など。)

	意見の概要
12	アール・ブリュットの概念は曖昧な部分が残っている。拡張していくのか、限定していくのかははっきりさせるべき。
13	滋賀の福祉施設で制作されてきた作品とアール・ブリュットをイコールで結んでしまっているのか疑問。デュビュッフェの唱えたアール・ブリュットとの共通点と相違点を明らかにすべき。
14	アール・ブリュットだけが『美』ではないと思う。
15	糸賀さんは障害ある人全てが世の光にと考えられた。『アール・ブリュット』のみを『光』とするのはどうか。
16	アール・ブリュット発信の検討は今年だけか。継続こそ力なりと思う。
17	「美」を柱に、行政施策を展開されるという考えに敬意を表す。「つなぐ、つながる」ことについて、地域住民とアール・ブリュットのつながりを効果的に生み出すことについて、作戦を考えていく必要がある。
18	創作現場に携わっていると、利用者の方の作品を広く伝えるということまでには手が足りないと感じていた。だから、このような滋賀からの発信、動きにより、利用者の方が社会に関わり、また、その周りの方達も関わっていく、大きな輪にしてほしい。
19	この活動を通じて、障害者の文化が理解され広がることを望む。
20	仏教美術やアール・ブリュットなどを滋賀から発信し、それらに触れるなかで、次世代の子どもたちの中から新しい才能、芸術家が出てくると思う。その人たちが発表する場やチャンスをもっと広げられないか。
21	アール・ブリュット、近代美術、仏教美術の3つが共存する具体的なプランはあるのか。それぞれが別々の方向に発信されてしまうのではないかと、個別発信された時にそれが大きく育つのかということが少し不安。
22	近代社会=規格で秩序立てる社会を考えると、アール・ブリュットやコンテンポラリーアートをその外だと捉えるのは理解できるが、仏教美術まで括るのはやや無理があるように思う。
23	出張して作品を見てもらうというのは良い策だと思う。駅前で展覧会など鑑賞できるものや、作品を買うことのできる機会を増やして欲しい。売ることのできる機会は、障害のある人だけでなく若い人にとってもためになると思う。
24	滋賀県立近代美術館で、仏教美術、アール・ブリュットを併せて発信するのは盛り沢山だが本当に可能か。対応する施設の増設、専門職員の確保など相当ハードルが高いと思う。従来型の美術館の発想ではとても無理。革新的な取り組みが必要。
25	「美の滋賀」構想に美術館の意図を反映させる必要がある。

3 近代美術館委員会の中間まとめに対するご意見(アール・ブリュット関連)

	意見の概要
1	アール・ブリュットはこれから広まっていく。社会に閉塞感がある時には突破力があるものに魅せられる。滋賀県がアール・ブリュットを発信し、人に来てもらうには、作品の点数が世界一、発祥の地といった「来る理由」と、来て後悔させないための「来てよかったと思える理由」が必要。近江学園を発祥の地とし、分館を建てて作品を集め、そこをアール・ブリュットの聖地とすれば、彦根城のひこにゃんのように、そこに訪れてもらえるのではないか。
2	アール・ブリュットの作品貸出という視点は面白い。カフェやギャラリーのオーナーにとっても、近代美術館が目利きをした作品ということで安心して展示できるのではないか。ニーズはあると思う。
3	普段はいかないようなところに入っていける仏像を見るツアーを開催すればおもしろいのでは。もしくはアール・ブリュットの作業場を見る。そのようなツアーの情報発信を美術館がすればよい。
4	アール・ブリュットに取り組むのであれば、他館が取り組む前に先駆けてやるのが重要。
5	仏教美術あり、アールブリュットありでは、散漫で、美術館としてのアピールが難しくなるのでは。アールブリュットに価値があるのなら、専門美術館をしっかり作った方がよいのでは。仏教美術とアメリカ現代美術もどうやって結びつくのかわからない。
6	アール・ブリュットの言葉の説明が無い。英語で言うところのアウトサイダーアートを念頭に置いているのか。それなら行政が入る分野ではない。やるならエイブルアートか。
7	アール・ブリュットはNO-MAでやっている。あるいは近江八幡では街中でのアートプロジェクトもある。それらに援助をすることで始めればどうか。
8	アール・ブリュット作品の事業展開することに賛成。この分野の専門的な研究機関が近くにできるとよいなとかねがね思っていた。
9	「美の滋賀」と考えると、まず、県民の「なぜ滋賀」「何が滋賀」にわかりやすく答えなければ、理解と納得が得られないのでは。支持がなければ、独りよがりになってしまう。「芸術性の高い作品の"収集"」よりも、「滋賀のアール・ブリュット」と言う「ブランドの確立」のほうにウエイトをおくべきでは。「アール・ブリュット」だけが一人歩きしたら、「美の滋賀」が置き忘れられてしまうのでは。
10	アールブリュット作品だが、滋賀県では美術家よりも行政が前面に出すぎて、道具にされているように思える。アートブリュットと言う、一つの箱に押し込められて進んでいる様に見える。明らかに遅れた後発事業を、無理を承知に押しつけて、行政が先棒を担いで美術の貨幣価格に置換える力があるわけでもない。作品の興味を深め、収集者、好事家たちの動きを呼ぶのは、行政の取る筋と違うのではないか。「福祉」や「人権」とは並べない、個人の興味、趣味の範囲を逸脱せず「個人が自由に美しいものを求める＝美術」基本を意識して進めてほしい。
11	アールブリュットの突然の提案に驚く。「デュビュッフェ」の「生の芸術」だけの説明ではわからない。デュビュッフェの作品はアールブリュットではない。自閉症の人の作品はどうか。アールブリュットとは精神障害者のアート作品ではないのか。
12	アール・ブリュットの作家は保護をうけて生活している人が多いと思う。タダで作品を集めるのは間違い。積極的に買い上げて支援を。
13	「アール・ブリュット」は、そのタイトルおよび内容について、未だ一部の当時者が理解している状況であると思う。一般市民には難解なものに映り、本検討の大きな課題である観覧者減対策に逆行するもと思う。
14	「アール・ブリュット」については「新たに収集を開始し…」とあるが、くれぐれも「滋賀」をお忘れなく。「日本やアジアを視野に入れたコレクション」は、後発のお金のある美術館にあって言う間に主役は取って代わられる。
15	アールブリュットはまだまだ県民に知られていない。たまに特別展などを行うくらいで良いのではないか。三本柱になるのか。
16	アール・ブリュットはその制作の背景まで知ると非常に重たいものである。仏教美術や小倉遊亀作品などを鑑賞するのは違う。

4 県広報誌「滋賀プラスワン」 11/12月号(「美の滋賀」特集)に対する読者コメント

	主な意見・感想など
1	「美の滋賀」が盛り上がってくれるととても良いなと思います。美術館の包まれるような、静かだけどあたたかい感じが昔から大好きです。京都駅にある「駅」のようなふらりと立ち寄れる美術、アートにふれられる場が近くにあるとうれしいです。
2	文化は衣食と同様大切であるという意見に賛成です。文化に関する情報発信に留まることなく、文化に接する機会を増やすアクションをお願いします。
3	嘉田知事と鷺田さんとの対談で、滋賀県が国宝・重分の数全国4位で、アール・ブリュットの拠点であると初めて知り、住人として誇りに思いました。
4	滋賀の美とはつまり、「自然の美」であり「アートとしての美」「生活の中に浸透している美」ということを再確認しました。私は約60年、滋賀の魅力とその住み心地の良さを味わって参りました。今老境にあって、その「滋賀の美」が つなぐ人の絆の強さと大切さを切実に感じております。
5	滋賀の美は人々にとってとても大切なものだと思います。風景だとか昔からある建物とか、また新しく作り出される物とか、それらのもの全部ずっと大切に守って、いつまでも残しておきたいものです。滋賀に帰ってきたらほっとできるものを、たくさんこれからも残してほしいです。
6	”文化の秋”ということで、アール・ブリュットの紹介は良いテーマだと思う。
7	興味深く読ませていただきました。滋賀県がアートを通じて行動を起こすということに感嘆しました。滋賀県のできること、しないといけないことの幅広さを感じました。
8	近年、仏像や史跡に興味湧き、奈良や高月観音の里まつり、安土城跡、小谷城跡などに行っていましたので「神仏います近江」展楽しみにしていました。歴史博物館、近代美術館に行き、歴史・仏教など勉強したいと感じました。アール・ブリュットも興味あります。様々な取り組み楽しみにしています。
9	「美術館だけではなく、街の中や自然の中にも現代アートの作品を展示するようなアート、フェスティバルがもっと広がるといいなと思いました。私も何かすることがあるか考えてみたいと思っています。
10	”滋賀の美”興味を持って読みましたが、“アール・ブリュット”の意味が分かりませんでした。滋賀県がどうして拠点なのか？
11	「美の滋賀」発信懇話会を初めて知りました。「生の芸術」・・・よく湖岸を通りますが、季節・時間帯によって琵琶湖の美しさが違います。いつもこの景色に力をもらいます。元気になる場所がこれからも滋賀に増えるといいなと思いました。